

# ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2024年4月3日時点)

➤ **露軍が各正面で攻勢を強め、ウクライナ全土に対するミサイル・無人機攻撃を継続する一方、ウクライナ軍は火砲や砲弾、防空ミサイルなどの不足に直面する中で防御戦闘を継続**

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約12万人、負傷者約18万人 (NYT23年8月18日)

: 死者約18万人 (ゼレンスキー大統領24年2月25日)

: 死傷者35.5万人以上 (英国防省24年3月3日)

「ウ」軍: 死者約7万人、負傷者約12万人 (NYT23年8月18日)

: 死者3.1万人 (ゼレンスキー大統領24年2月25日)

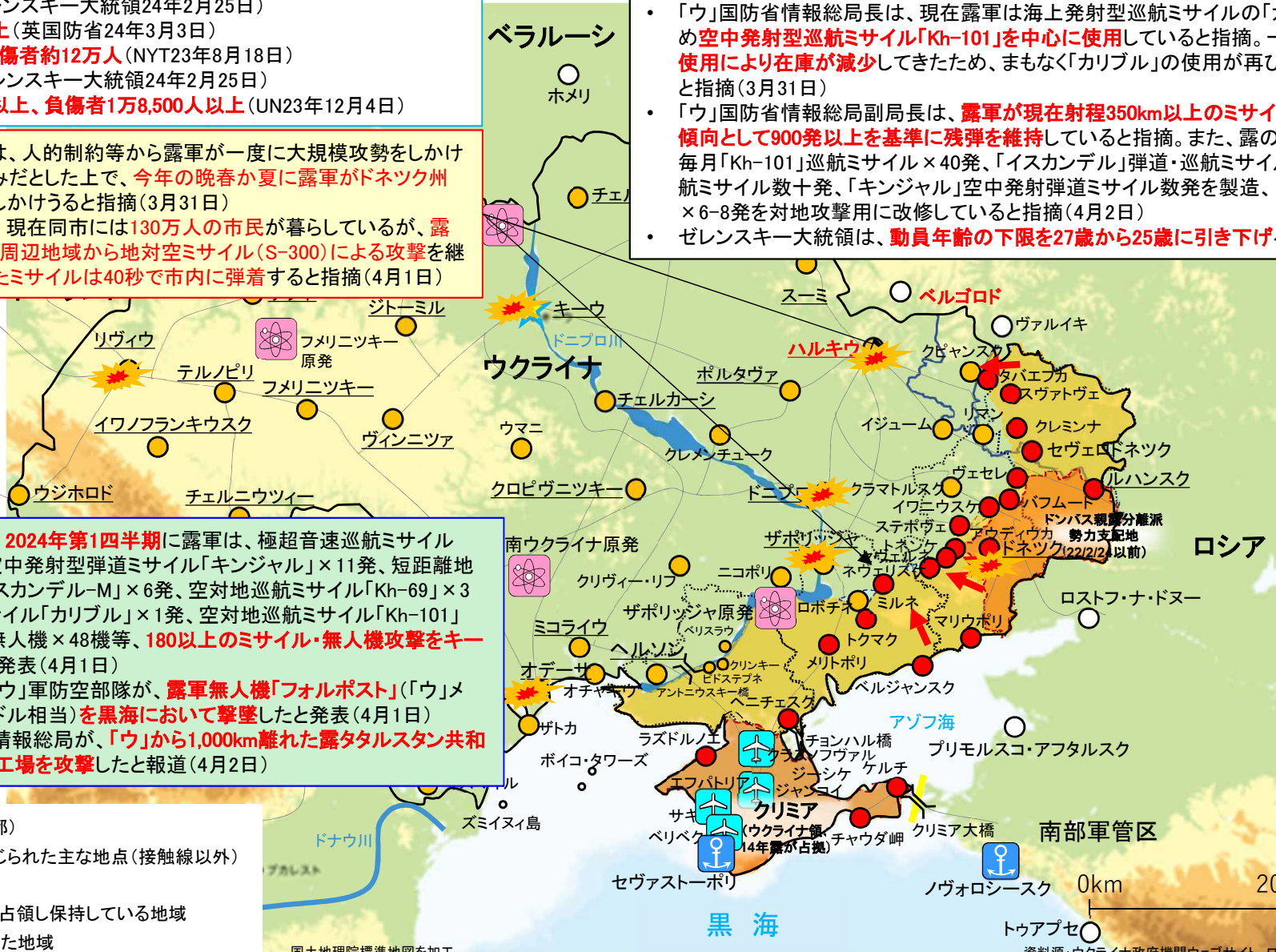
「ウ」市民: 死者10,000人以上、負傷者1万8,500人以上 (UN23年12月4日)

- 米戦争研究所(ISW)は、人的制約等から露軍が一度に大規模攻勢をしかけられるのは一正面のみとした上で、**今年の晩春か夏に露軍がドネツク州西部に大規模攻勢をしかけると指摘**(3月31日)
- 「ウ」ハルキウ市長は、現在同市には**130万人の市民**が暮らしているが、露軍がベルゴロドなどの周辺地域から地対空ミサイル(S-300)による攻撃を継続しており、**発射されたミサイルは40秒で市内に弾着すると指摘**(4月1日)

- 「ウ」国防省情報総局長は、**露本土と「ウ」南部占領地域を結ぶ鉄道の建設が完了しつつあると指摘**(3月31日)
- 「ウ」国防省情報総局長は、現在露軍は海上発射型巡航ミサイルの「カリブル」の性能が劣るため**空中発射型巡航ミサイル「Kh-101」を中心に使用している**と指摘。一方、「Kh-101」は**最近の使用により在庫が減少**してきたため、まもなく「カリブル」の使用が再びみられるようになるだろうと指摘(3月31日)
- 「ウ」国防省情報総局副局長は、**露軍が現在射程350km以上のミサイルを約950発保有**しており、**傾向として900発以上を基準に残弾を維持している**と指摘。また、露のミサイル製造能力として、毎月「Kh-101」巡航ミサイル×40発、「イスカンデル」弾道・巡航ミサイル×40発、「カリブル」巡航ミサイル数十発、「キンジャル」空中発射弾道ミサイル数発を製造、「オニクス」対艦ミサイル×6-8発を対地攻撃用に改修していると指摘(4月2日)
- ゼレンスキー大統領は、**動員年齢の下限を27歳から25歳に引き下げる法律に署名**(4月2日)

- 「ウ」キーウ市当局は、**2024年第1四半期に露軍は、極超音速巡航ミサイル「ツィルコン」×5発、空中発射型弾道ミサイル「キンジャル」×11発、短距離地对地弾道ミサイル「イスカンデル-M」×6発、空対地巡航ミサイル「Kh-69」×3発、海上発射巡航ミサイル「カリブル」×1発、空対地巡航ミサイル「Kh-101」×113発、「シャヘド」無人機×48機等、180以上のミサイル・無人機攻撃をキーウに対して実施したと発表**(4月1日)
- 「ウ」空軍報道官は、「ウ」軍防空部隊が、**露軍無人機「フォルポスト」(「ウ」メディアによれば700万ドル相当)を黒海において撃墜したと発表**(4月1日)
- 「ウ」メディアは、「ウ」情報総局が、「ウ」から**1,000km離れた露タタリスタン共和国の無人機組み立て工場を攻撃したと報道**(4月2日)

- 主要都市(下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点(接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- ☀ 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- ☀ ウクライナ軍が奪還した地域



国土院標準地図を加工

資料源: ウクライナ政府機関ウェブサイト、ロシア大統領府ウェブサイト、ISW等